



Фестиваль российской культуры в Японии-2011

モスクワ・パントマイム劇場

〈ロシアのろうあ者劇団〉

Московский театр Мимики и Жеста

コメディ

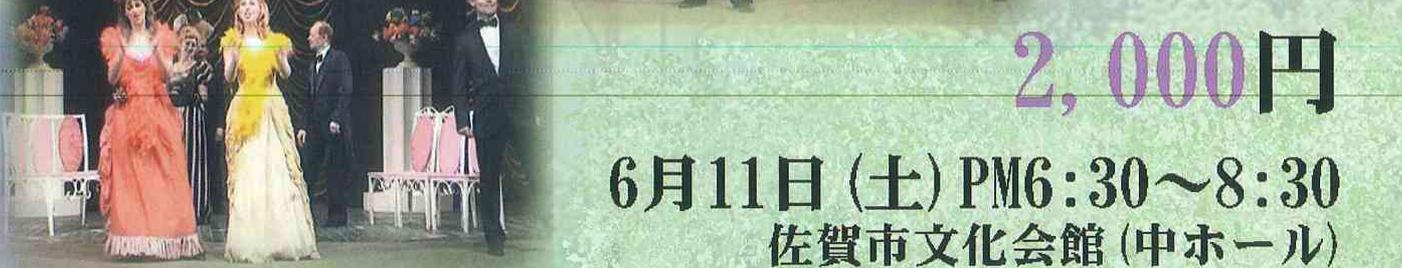
「チャーリーはどこだ？」

《Где Чарли?》



奇抜でコミカルな
トリックが満載!
初恋を描いた陽気なコメディー
…さてその結末は?

[原作] ジョージ・アボット
[演出] G.ヤケルソン
[衣装美術] N.エポフ
[振付] D.プロトキン



2,000円

6月11日(土) PM6:30~8:30

佐賀市文化会館(中ホール)

チケットの申し込み

佐賀県聴覚障害者協会

〒840-0851 佐賀市天祐1-8-5

TEL/FAX 0952-22-7307

E-mail: sagarou@ksn.biglobe.ne.jp

主催: 財団法人全日本ろうあ連盟

共催: ロシア文化フェスティバル日本組織委員会

後援: ロシア連邦外務省 ロシア連邦文化省 ロシア連邦協力省

駐日ロシア連邦大使館 口日協会



◆モスクワ・パントマイム劇場について

モスクワ・パントマイム劇場についての多数の批評には、「ありふれていない」「独特の」「独自の」といった形容詞があふれている。1962年、聾啞のシューキン演劇大学の第1期卒業生を中心に設立された、世界で初めての聾啞の俳優によるプロの劇場である。

基本的に劇団員たちは聴力がなく、ジェスチャーや表現や所作で会話をしている。舞台制作には、音や言葉の色彩を保障し、声で非常に微妙な感情のニュアンスを伝える俳優たちが参加する。国外では、聴覚がない俳優たちの可能性を研究するだけではなく、今日の劇場の一般的な問題をも研究する研究室として認識されている。それぞれの劇場には、それぞれのテーマがあるはずである。人間の、周りの世界を理解し、その中で自分の場所を見つけたいという希望は自然なものである。それが聴覚のない人間であるなら、「自分とは何者だろう?」「自分は何のためにこの世にいるのか?」という問題は特に鋭いものとなる。パントマイム劇場は、表現において独特であるばかりでなく、一般的な問題をも包括し、芸術に奉仕することを追い求め、敏感に声明を感じ、その不安や問題、痛みを実感しているのである。

モスクワ・パントマイム劇場は、40年の活動期間で、ロシアや諸外国の劇作家の戯曲やロシア及び世界の古典作品から100以上におよぶ劇を上演した。傑作とされているのは、「たくらみと恋」、「縛られたプロメテウス」、E.フェドトフの戯曲による「喜劇王の笑いと涙」、「ありえなかった、アルトゥロ・ウイの出世」、「チャーリーはどこ?」、「カプリチオス」などである。また、同劇場では子どもたちのために、「ガラスの心臓」「シンデレラ」「ジャングルブック・少年モーグリ」「アリババと盗賊たち」などが上演された。19年間で「シンデレラ」は1046回、定番の「ジャングルブック・少年モーグリ」が子どもたちのために上演されたのは、800回以上にのぼる。同劇場は世界の多くの国々で公演を行っており、日本公演が期待される。



◆あらすじ

19世紀、英国オックスフォード大学の学生チャーリーとジャックは、女友達を昼食に招待します。卒業を間近に控えた彼ら、レディたちの心を捕えるチャンスは今回限り…とばかりに張り切ります。しかし、若い男女だけの集まりはご法度の時代のこと、ブラジルに住むチャーリーの叔母がお目付け役として同席することに。ところが当日、時間になっても叔母があらわれないことから、チャーリーは自分自身と叔母さんの二役を演じる羽目となり…。ヴィクトリア王朝をパロディ化、格式とルールに囚われた古い時代を現代のセンスで笑い飛ばしながら、登場人物達の生き生きとした恋愛模様を描く、コミカルなトリックが満載のミュージカルです。